

1. 評価結果概要表

平成 20年 3月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	2072200369		
法人名	社会福祉法人 恵仁福祉協会		
事業所名	曲尾グループホーム		
所在地	長野県上田市真田町傍陽751 (電話) 0268-61-5020		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年3月10日	評価確定日	平成20年4月22日

【情報提供票より】(20年 2月 10日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	6 人	常勤2人	非常勤4人 常勤換算2.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 80 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要 (2月 10日 現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名	
要介護1	1名	要介護2				
要介護3	3名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	87 歳	最低	82 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さなだクリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

真田町の中心部より少し離れた山間地の曲尾地区に位置し、古民家が見受けられる懐かしさのある場所で、築110年と言われる民家を、あるがままを出来るだけ保ちながら、若干の不便さも、気付く力、出来る力を引き出して生活してゆけるよう作られたグループホームである。一人ひとりをゆっくり見守る、馴染みの地域の中で暮らすを目指して、入居者6名と職員で作る家庭的雰囲気と地域住民との交流を図りながらゆったりと安心して暮らしています。管理者は介護の質の向上を念頭に置いて、孤立しがちなホームの改善のためグループホームネットワークを作り、交流をまじえての学習や連携を図っている。又母体法人の入浴車や訪問介護の活用、ターミナルへの対応等どんな状態になっても安心して暮らし、ここに居ても良いと思えるケアに重点を置いて事業運営を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 風呂場の脱衣場の改善については障子紙張りの衝立で対応。プライバシーの確保、広さ的にも問題なし。栄養士の指導については母体法人の栄養士の指導を頂き、相談もして、献立に反映されている。交番等との連携については入居者移動時の調査、合同避難訓練、支えあいマップの対象箇所になり、地域から認知されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は評価には前向きに取り組み、評価の意義や目的が全職員にも理解されている。自己評価をして、初めて気付くこともあり、介護の質の向上には欠かせないものであるという認識を持っている。評価を繰り返すことにより、気付く力がさらに増していくことを感じた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には地域住民の代表が参加されホームの存在意義やあり方を説明し、理解を求めている。住民からも素朴な疑問や現状、これからのあり方等について活発な意見交換がなされている。特に19年度は初めての地区民との合同避難訓練の実現への話し合いが行われ、多くの住民参加を得て無事に訓練ができ、次回への足がかりともなった。話だけで終わる会議となりがちであるが、実践を通して親近感がさらに深まったことが、訓練の反省会の議論の中から確認できた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目③	家族会や面会時等において、ご家族から意見や要望の言えるよう配慮され、介護が困難な場合にはご家族からの情報を得て対応している。グループホームたよりで近況を報告したり、金銭の確認を頂くなど入居者が安心して暮らしていることを納得してもらっている。受診の折などの協力も得られ、ご家族との良い関係を作り上げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として自治会に加入し、いきいきサロン、敬老会、地域清掃等に参加し、交流が図られ、保育園との交流も多く、地域に住んでいるお年寄りとして認知されている。地域に馴染んだ古民家を活用しているため、違和感なく溶け込み、野菜、果物等のおすそ分けや散歩等での声掛けもあって、ゆったり、のんびりと当たり前前に暮らしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で、これまでの生活が継続でき、その人らしさを発揮しながらゆっくりと安心して暮らしてゆくことを理念に掲げ、玄関を入ると正面に額入りで一幅の作品が如くさりげなく掲げてあり、訪れた人にすぐわかるようになっていた。	○	法人としてのグループホームの理念は掲げられていたが、事業所独自の理念もさりげなく掲げられることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時には理念をしっかりと学び、日々には業務や申し送りの際に伝え、理解していただいている。日々の暮らしの中で、その理念の実践が出来る姿を垣間見る事が出来た。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のいきいきサロン(月1回)に参加するなど、地区の自治会の一員として各種の行事や交流(敬老会・清掃・保育園児との交流等)に参加して自治会の仲間として認知されていると共に地域を支える一翼にもなっている。さらに、事業所の行事(焼肉会・味噌炊き等)への参加も頂いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価を前向きに捉えており、全職員に理解を求めた上で自己評価を行っている。評価により自ら気付いたり、職員では気付きにくいことを外部の目で知らせてもらうなどサービスの質を振り返る良い機会と捉えており、評価の意義を十分に理解されていた。		

曲尾グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表者の参加の中で、グループホームの基本的な理解や疑問点などの話し合いが活発に行われている。ホーム側も丁寧に説明している姿勢が伺えた。19年度は合同避難訓練に向けての話し合いが行われ、多くの住民参加を得て実現できたことは評価に値するものと思います。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村は介護保険者として、又福祉を推進する最前線の立場として事業の推進において大変重要な存在である。運営推進会議への参加に留まらず、機会あるごとに行き来が積極的に行われることが求められます。	○	町役場との接触の機会を多く持つ努力を相互に工夫して行かれることを期待します。(事業所としては福祉に関わる教室の企画への支援依頼。町としてはグループホーム理解のための現地での研修会の企画。事業所や地域の課題聴取のための来訪等。)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時に現状や金銭出納簿の報告をし、確認を頂いている。遠方の方は郵送にて写真入のたよりと共に出納簿を送付している。健康状態に変化があった時には連絡がなされ、ご家族が十分な連絡を得て不安を感じていない様子が伺えた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは良い関係を保っており、相互に信頼感があり意見等を自由に言える環境が出来上がっている。これまでは特別な要望、苦情の出していないのが現状である。	○	意見、苦情、不満等は日常的な関わりでないとなかなかでないものであります。テーマ(掃除・言葉遣い・整理整頓・顔の表情等)を決めて、その日に気付いた点を提案してもらうなど意見を引き出す工夫をすることを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動者や新人が来た場合は、一ヶ月間は利用者との関係を築くために正規の勤務割には入れないようにして入居者と関係を築いており、入居者への配慮が充分出来る体制になっていることを伺った。ただ、基本的には職員は固定化しており、入居者への影響が最小限に留められているのが現状である。		

曲尾グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人全体の会議があり、意思疎通が充分になされ、研修報告会も行われている。法人主催の研修会(月1回)グループホーム勉強会(2ヶ月に1回)を開催している。外部研修では認知症のリーダー研修会に参加するなど介護の実践面のみならず、法的勉強も出来て、事業の全体把握につながり、とても喜んでいる職員もいた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	19年度に近隣のグループホームとのネットワークができ、他のグループホームとの交流が実現し、悩みを話したり、工夫されていることが参考になったり、日々の業務やケアを見直す良い機会となっている。20年度に向けてさらなる活発なネットワーク活動を期待します。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居し、徐々にホームに慣れ、利用者、ご家族共に納得して入居できるように努めている。宅老所を利用している方に事業所が数日間送迎して体験入居した話を聞き、辛抱強く待つことの出来る姿勢を持った事業所、職員であると感じた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の持てる能力を見つけ、その人が自信を持ってやってゆけることを職員と一緒にやっている。パンジー作りの得意な人は職員が教わりながら、指示されながら行っていることを伺った。仕事を頼むと積極的にやらない入居者がいたが、職員と共にやると一生懸命になり、共に支えあう関係を入居者が求めていると感じた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	かえる合戦の池を見たい人、小菅訓導の碑を見たい人等、それぞれの入居者の望みを聞いて出かけることにしている。又、寄り添いながら言葉や表情より思いや感情を汲み取るようにしている。ご家族からの情報も大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全体で、それぞれのアイデアを出しながら充分な課題検討や介護の目標を見つけ出し、入居者、ご家族の意思が反映された介護計画が作成され、共通認識の下で、目標達成の実践が行われている。介護計画書の入居者・ご家族の承認印のないものも見受けられたので、確実に承認をもらうことを望みます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、入居者一人ひとりの課題の検討を行い、3ヶ月に1度、介護計画の評価をして、その見直しを行っている。介護の実践が先行して見直しの介護計画書の作成が遅れる場面もあることを伺った。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、医療処置を受けながらの生活継続、終末期の対応ができる体制があり、通院や送迎の支援も柔軟に行っている。さらに、重度入居者には母体法人の機能を活かして入浴車を利用しての入浴支援も行っている。		

曲尾グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族の希望に沿った受診や通院がなされている。時にはご家族の協力を頂くこともある。訪問診療や医療機関との連携も密に行われ医療に関する安心を入居者、ご家族から得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応経験もあり対応指針が定められている。ご家族、医師、看護師、職員との話し合いが行われ、共通認識の下に、ご家族の揺らぐ心も支援しながら十分な対応ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会や日々のミーティングを通してプライバシーを損ねない、入居者の尊厳を守る対応に向けての職員の意識向上が図られている。たより等の写真掲載には必ず、入居者、ご家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせた個別的援助が実現できています。のんびりとした朝食風景、散髪の計画の相談、希望による買い物へ出かれる姿等、入居者の気持ちに寄り添った支援がなされている姿が見受けられた。		

曲尾グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の備蓄はなるべくしないで、その日のチラシを見て、買物に行ったり、盛り付け、食材の刻みを共にしたり、おはぎ作りをして入居者、職員と一緒に食事作りを楽しんでいることを伺った。晩酌を楽しむ人、ピザやカップラーメンなどの新しいメニューへの挑戦もして、バラエティーに富んだ食生活を楽しんでいる様子が伺えた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	懐かしい五右衛門風呂風の浴槽、タイル張りの風呂場で若干の不便さはあるものの、ただ便利さだけを求めた風呂場より癒しや味わいのある入浴となっている。時間や曜日など入居者の意向に沿った入浴支援が行われている。重度入居者には母体法人の訪問入浴車を活用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は農業経験者が多く、家主の畑を活用して野菜作り(ジャガイモ・ネギ等)を行っている。パンジー作りの得意な方も居て、職員に教える姿は役立っている喜びに輝いていると伺った。他にも梅干、干し柿、昔ながらの味噌作り(3ホーム分)等入居者の知恵を借りながら一緒に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じての外出や桜・藤・つつじ等の花見など、重度入居者には季節を実感していただくために近所への散歩などの支援が充分に出来ている。特に近辺の外出を通して地域との関係継続が得られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないということが職員の共通認識になっています。調査時には外出傾向が見られる利用者が居ましたが職員間で気分や状態をきめ細かい支援がなされているので、安全面に配慮した見守りが充分対応できていた。		

曲尾グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	19年度にご近所の多数の参加を得ての夜間想定 の避難訓練が初めて実現し、地域の協力が現実の ものとなった。見取り図の必要性、タンカの使用方 法、大声の意味など訓練を通して実感できた改善点 も見つかった。20年度には地域の消防団の協力を 得て訓練を行うことを目指している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス面は法人の栄養士の指導を頂き、 献立に反映させ、全体的に馴染みのある暖かな家 庭的な食事を提供している。水分量は大きめのカ ップを利用したり、ココアをマグカップで飲んでい たり、食事の際のお茶は2～3杯を目安にして、 確実に取れるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不 快な音や光がないように配慮し、生活感や 季節感を採り入れて、居心地よく過ごせる ような工夫をしている	玄関には多くの花々が飾られ、訪れた際にはほっと 和む雰囲気があった。居間は昔ながらの板ふすま で壁には石川啄木の歌や絵画が飾られ、仏壇には ここでなくなられた人の写真もあり、死者と共に暮ら しているといった田舎の原風景が感じられた。採光 もよく明るく和やかな居間になっていた。台所・食堂 は改造が施され、さっぱりとした、快適な場所となっ ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家 族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	仏壇、位牌、タンス、壁掛け、写真など馴染みの ものが置かれてある居室であり、入居者が居心地 良く過ごせるよう配慮がなされている。鏡台のある 居室もあり、隣の家、庭木も見渡せて、採光もよく全 体的に馴染める居室になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。